

⑦

3 震災復興の願いを実現する政治

⑥ 東日本大震災が発生したとき、市や県、国は、どのような取り組みをしたのでしょうか。

P46 ○東日本大震災→・ 2011 年 3 月 11 日に発生

資料集 P18 の「資料ウオッチ」をやってみよう!

- ・宮城県沖を震源とする巨大な地震
- ・岩手県、宮城県、福島県、茨城県など、広い範囲で大きな被害が

○津波による被害によって・・・

- ・家族を失った。
- ・家が店、病院などの建物がこわされた。
- ・がれきが流れてきた。
- ・漁港の施設がこわされた。 など

P47 ○しかし、現在は・・・

- ・がれき が撤去された。
- ・建物 や 道路 が整備されている。
- ・3か月後には、かつお の水あげが始まった。



一体どんな努力が？

P48 ○気仙沼（市）の取り組み

- ・震災直後に 災害対策本部 を設けた。→ 避難所 の開設や 被害状況 の確認など
- ・水、食べ物、仮設トイレの要請 など

○宮城（県）の取り組み

- ・情報収集（被害状況）
- ・自衛隊に災害時の派遣要請
- ・災害救助法を適用して、物資を被災地に
→災害発生直後、国が応急的に救助活動を行い、被災地の保護や社会秩序の保全を行うための法律。

P49 ○日本（国）の取り組み

- ・ 災害対策基本法 にもとづき、 緊急災害対策本部 を設けた。
- ・自衛隊の派遣人数の増員
- ・他国への救助要請
- ・必要な物資や機材の準備 など

⑦ 震災直後から、市 や 県 ， 国 はそれぞれ連けい・協力 をして、被災者を助けるためにすぐに動き出している。また、大震災前から、緊急時に対応するための体制がつけられている。

◎このプリントを見開きノートの左のページに貼り、さらに詳しく右のページにまとめてみましょう。その際、最後に⑦も書きましょう。

復旧・復興に向けて、国はどのような取り組みを行ったのでしょうか。

P50 ○東日本大震災復興基本法とは・・・

東日本大震災からの復興についての基本理念を定めた法律。(震災から約3か月で成立)
国や市町村がになう責任や国民の努力について定められている。

教科書を読み、自分の言葉でまとめてみよう！

○復旧・復興とは・・・

国や都道府県が主体となって、法律にもとづいて、被災地の道路、鉄道、病院などの公共性の高いものや、水道、ガス、電気などのライフラインを修復し、被災地域の活力ある再生をめざすこと。

○復旧・復興に向けた取り組み

【国は…】

- ・ 国会 で話し合っ決められた 予算 や 法律 にもとづいて、復旧・復興 を行った。
- ・ 国会での話し合いを経て、第一次補正予算 を成立させた。
- ・ 復旧・復興を計画的に進めるために、新たな役所（復興庁）を設置した。
- ・ 復旧・復興のために、特別な 予算 が立てられる。また、その 予算 には、税金 が使われている。

【県や市町村は】

- ・ 国が整えた体制のもとで、ライフライン（水道、ガス、電気 など）の修復や地域の産業の 再建 などを行った。
- ・ 仮設住宅 をつくったり、大量の がれき を撤去したりした。

国は、必要な 法律 を急いで制定したり、特別な 予算 を立てたりして、被災地の 支援 を行っている。

政治 は、人々の願いを実現する働きをしている。

◎このプリントを見開きノートの左のページに貼り、さらに詳しく右のページにまとめてみましょう。その際、最後に㊸も書きましょう。

◎教科書 P50 の $\boxed{2}$ の資料や P51 の $\boxed{3}$ の資料についても、右のページにまとめてみましょう。

⑨

め

復興に向けて、市や市民は、どのような計画を立てて、どのような取り組みをしてきたのでしょうか。

P52 ○震災後の気仙沼市の取り組みについて

- ・大震災を克服して、新しい気仙沼をつくるために 気仙沼市震災復興計画 をつくった。
- 住宅，道路，橋 の整備
- 新しい 魚市場 の建設
- 市民の 要望 を具体的に実現
- 水産業 の特色を生かした まちづくり ※ 合い言葉は「海と生きる」

○復興に向けた取り組みについて、気付いたことを書き出しましょう。

年	月	主なできごと
2011	3	東日本大震災発生
	6	第1回気仙沼市震災復興会議 →[3]
		震災後初のかつおの水あげ
	10	気仙沼市震災復興計画作成
	12	南町紫市場（仮設商店街）開業
2012	8	BRT気仙沼線運行開始 →[8]
2013	3	BRT大船渡線運行開始
2014	7	「海の市」全館再開 →[1]
2016	3	被災した気仙沼漁港岸壁 <small>（ひらべさ）</small> の約50%の復旧完了
2017	11	南町紫神社前商店街開業 →[2]
2019	4	気仙沼大島大橋開通 →[7]

④復興に向けた取り組み

- ・震災の3か月後にかつおの水あげが行われている。
- ・震災が起こった年に、復興のための取り組みが始まっている。

など

P53 ○気仙沼市の努力により――

建物・施設・交通機関など	大震災後	その後
海の市・シャークミュージアム	一時閉鎖	2014年に (<u>市内最大の観光施設に</u>)
南町紫神社前商店街	(5年間プレハブの仮設商店街)	2017年に (約30の店が営業。上の階は災害公営住宅)
鉄道	大きな被害	(鉄道にかわって BRT が導入)
(<u>気仙沼大橋</u>)	離島への交通手段は船のみ	2019年に (<u>開通</u>)
生鮮かつおの水あげ	大きな被害	3か月後に (<u>水あげ再開</u>)

ま

市は 震災復興計画 を作成し、計画にもとづいて、復興に向けた取り組みを行っている。また、市民も国や県、市の 支援 を受けながら、新しいまちづくりに向けて、みんなで協力している。

◎このプリントを見開きノートの左のページに貼り、さらに詳しく右のページにまとめてみましょう。その際、最後に④も書きましょう。

◎教科書 P53 の ⑤ の資料についても、右のページにまとめてみましょう。

10

め

これからに向けて、どのような課題があり、どのような取り組みが行われているのでしょうか。

P54 ○復興を進めている被災地（気仙沼市）の現在の課題

→ 人口 の減少 → 課題解決のため → 魅力 のある気仙沼市に！

○気仙沼市のキャッチフレーズ「地方にある（ 世界 の 港町 ）」



①「ちよいのぞき」ポスター（上）と「漁師カレンダー」（右） 漁業を生かした観光メニューの充実に取り組み、市の魅力を発信しています。



②気仙沼の水産資源を生かした商品 気仙沼市の特産であるさめやほやを使い、化粧品や調味料などの新しい商品の開発に取り組んでいます。



③気仙沼市移住・定住支援センター 気仙沼市の依頼を受け、移住してきた若者が運営しています。気仙沼に移り住むことを考えている人をサポートするため、気仙沼での仕事、空き家、イベントなどの情報を提供しています。

・ 水産資源 を生かした商品の開発

・ 観光 メニューの開発

・ 移住 してきた人への情報提供

P55 ○復興を進めている被災地（陸前高田市）の取り組み

・ 市役所も津波によってこわされたが、すみやかにプレハブの市役所をつくり、復旧・復興に取り組んだ。

・ 市で震災復興計画を作成し、防潮堤の建設のかさ上げ工事を行った。

など

ま

現在、課題となっていることもあるが、市と市民が協力して

魅力 ある まちづくり を進めている。

◎このプリントを見開きノートの中のページに貼り、さらに詳しく右のページにまとめてみましょう。その際、最後に⑩も書きましょう。

◎資料集 P19 の③を読んで、自分たちにできる準備についてまとめてみましょう。

11

め

原子力発電所事故後、人々の生活を取り戻すためには、どのようなことが必要でしょうか。

P57 ○原子力発電所事故→・2011年3月11日に起きた東日本大震災で、福島 県の 大熊 町

すみません。間違えました。訂正です。

~~近くにあった~~原子力発電所が 爆発 事故を起こした。
にある

○原子力発電所が事故を起こしたことによって…

- ・大量の 放射性物質 がもれ出した。
- ・政府は、周辺の市町村に避難指示を出した。
- ・10万人以上もの人々が、ふるさとを離れなくてはならなくなった。

など

○地域の人々がもどれるように…

- ・政府は、放射性物質を取り除く除染作業を進めた。
- ・道路や水道などの生活を支える設備の復旧も進めた。

など

○そして、現在

- ・少しずつ避難指示が解除され、人々がもどれるようになってきた。
- ・富岡町の一部で避難指示が解除され、7年ぶりに「桜まつり」が実現した。

など

○今後の課題

- ・何年間も住んでいなかったため、まちがあれ果てている。
- ・働く場所がない。
- ・人々がもどってきて生活を立て直し、町がにぎわいをもどすには、まだまだ多くの時間と努力が必要である。

など

ま

原子力発電所事故後、人々の生活を取りもどすためには、国は人々の願いをもとに 政治 を行い、自分たちは復興の助けになることをする必要がある。

◎このプリントを見開きノートの左のページに貼り、右のページにさらに詳しくまとめたり、教科書 P56（これまでの復習）についてまとめたりしてみましょう。その際、最後に㊦も書きましょう。